

夏季手当に向けた若手の声

JR東労組本部は申13号2021年度夏季手当等に関する申し入れを行い、6月3日に第2回交渉を行います。夏季手当満額獲得に向けて、職場からたたかいをつくり出しましょう！

● 新型コロナウイルス対応

- ・コロナウイルスが蔓延している首都圏に行くのはリスクがある。不安の中でお客さまにも気を使いながら業務している。
- ・マスクを着用しての業務は熱中症のリスクもある。メンテナンス職場では作業者同士の距離感も近くなる時もあるが、マスク着用で業務に従事してきた。
- ・払い戻し対応や消毒作業・換気対応で業務量はコロナ以前より増えている。会社は社員の頑張りに応じてほしい。



● 東京オリンピック・パラリンピック対応

- ・駅サポーターに応募している。大会成功に向けて各職場でも要員が厳しくなる中、奮闘している努力を手当で認めてほしい。
- ・英語の肉声放送やタブレットでの多言語案内や優等列車の案内シール貼り付け作業を行っている。訪日外国人旅行者に向けて様々な対応を実施している努力を会社経営陣は見るべきだ。



● 黒字化に向けた取り組み

- ・ペーパーレス化の観点でタブレット操作や更新対応したり、消耗品の限度変更などのコスト削減に取り組んできた。またコストダウンの観点でマスクも自費になっている。人への投資をするべきだ。
- ・グリーンフィールドプロジェクトへの参加したり、黒字化に向けてグループ会社の商品を購入している。黒字に向けた努力を会社は認めて還元すべきだ。



● 年収10%減と定期昇給削減によってもたらされた生活実感

- ・定期昇給削減によってモチベーションは下がっている。ローンを支払っている人は今までボーナス払いだったが、貯金を切り崩して支払いに充てている。社員と家族の幸福の実現を謳う会社方針とは真逆である。
- ・年収減少がいつまで続くのか不安。貯金をすることが出来ないため結婚出来ない・子供もつukれない・家も持てないような生活水準になってしまう。人材流出に拍車が掛かる恐れがあるし、そのような企業に入社を希望する人が出てこない。満額回答で社員に投資すべきだ！



21春闘の会社回答に対する怒りと悔しさをバネに、
私たちの行動で夏季手当要求満額を勝ち取ろう！

